

平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 92 人 国語B 92 人

② 算数A 92 人 算数B 92 人

5 留意事項

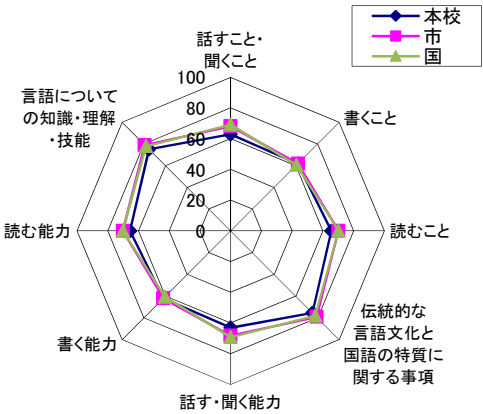
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

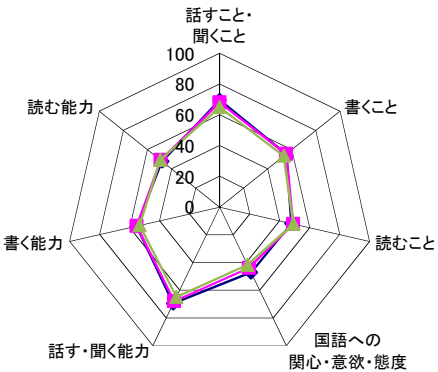
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	63.0	68.2	69.2
	書くこと	62.0	62.0	60.6
	読むこと	65.6	70.2	70.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.3	79.1	78.0
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	63.0	68.2	69.2
	書く能力	62.0	62.0	60.6
	読む能力	65.6	70.2	70.2
	言語についての知識・理解・技能	75.3	79.1	78.0



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	69.6	68.0	64.9
	書くこと	55.4	55.3	53.4
	読むこと	47.8	49.0	49.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	47.1	43.9	41.7
	話す・聞く能力	69.6	68.0	64.9
	書く能力	55.4	55.3	53.4
	読む能力	47.8	49.0	49.2
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

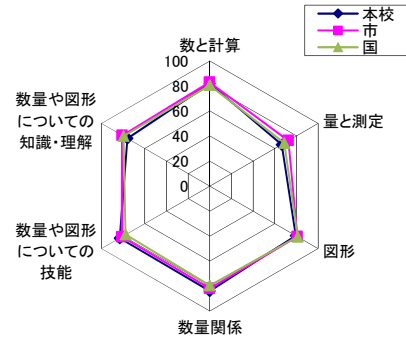
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・A問題の正答率は63%で、市や全国と比べ5ポイント程度低いが、B問題の正答率は69.6%で、全国と比べ5ポイント程度高くなっている。 ○B問題の「折り紙のみりよくについて、スピーチメモとグループの話し合いで出された意見を基に書く」問題の正答率は60.9%で、市や全国と比べて8～12ポイント高くなっている。	・普段から他者との考えとの共通点や相違点に注意しながら聞くことを励行する。また、自己の考えを裏付ける資料を活用しながら説明する活動も経験させながら、論理的な表現ができるようにする。
書くこと	・領域の正答率は、県や全国と比較して同程度である。 ●B問題の「友達の考えと同じ考えの人を説得するために引用する文章を、文章の一部から選択する」問題の正答率は66.3%で、市や全国と比べ5ポイント程度低くなっている。 ○B問題の「きつねの写真から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんとび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く」問題の正答率は50%で、市や全国と比べ6ポイント程度高くなっている。	・いくつかの条件に基づいた文章表現の方法を、今後も経験させることで、文章を要約する力が身に付くようにさせる。
読むこと	・A問題の正答率は65.6%で、市や全国と比べ5ポイント近く低くなっているが、B問題の正答率は47.8%でほぼ同程度である。 ●B問題の登場人物の相関関係や発言の意図を問う問題の正答率は71.7%で市や全国と比べ4～6ポイント低くなっている。	・読書や音読を励行し、長文読解に慣れさせるようにする。正確な読みに迫るために登場人物の相関関係を図に表したり、登場人物の発言について、その意図を探ったりする活動を経験させるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・領域の正答率は、市や全国と比べてやや低くなっている。 ●基礎的な漢字の書き問題の正答率が10ポイント程度低いものがある。	・俳句やことわざなどの伝統的な言語文化に触れる機会を設けるようにする。 ・ローマ字については、パソコンを利用する活動を増やすとともに、普段の生活でもローマ字に触れる機会を増やすようにする。 ・既習漢字を振り返らせながら、日々漢字の学習に取り組ませるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

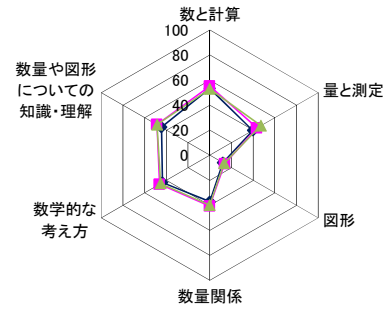
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	81.9	82.9	80.6
	量と測定	66.3	72.5	68.8
	図形	79.3	80.8	81.1
	数量関係	83.9	81.9	79.6
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	83.2	81.2	77.7
	数量や図形についての知識・理解	76.1	80.9	79.7



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	53.3	55.1	52.8
	量と測定	39.7	43.4	47.0
	図形	12.0	13.8	13.2
	数量関係	37.1	40.8	40.0
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	43.7	46.5	45.4
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解	44.6	48.8	48.6



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・領域の正答率は、全国平均と同程度である。 ○A問題の基礎的なかけ算の正答率は90.2%で全国と比べ5ポイント高くなっている。 ○A問題の商を分数で表す問題では、正答率が89.1%で市や全国と比べ8～20ポイント高くなっている。 ●B問題の13本の直線を使い手紙の用紙の辺を3等分する設問の正答率が、市や全国ほぼ同程度ではあるものの28.3%と低くなっている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日常生活の事象の解決に、数式や数列などを活用する場面を設け、その関係性を図に表したり、説明したりする活動を意図的に取り入れていく。
量と測定	・A問題の正答率は、66.3%で市や全国と比べ、2～6ポイント低く、B問題については、39.7%で、4～7ポイント低くなっている。 ●A問題の重さや長さについての単位に関する設問の正答率は、66.3%で市や全国と比べ、4～8ポイント低くなっている。 ●B問題の示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述する設問の正答率は、13%と大変低く、市や全国と比べても6～13ポイント低くなっている。	・飛び離れた数値を除いた場合の平均の求め方や基準値をもとにした平均の求め方など、多様な平均を求める問題に取り組ませる。 ・問題につながる長文やグラフ、表など、必要なところに線や印を付けるなどして、何が分かり何を問われているのかを明確にさせながら問題に当たるようにさせる。
図形	・領域の正答率は、市や全国と比べ同程度である。 ●A問題の立方体の面と面の位置関係を問う設問の正答率は80.4%で、市や全国と比べ6ポイント程度低くなっている。 ●B問題の割合の関係を捉え「最大の満月の直径」に近い硬貨を選択する問題では、正答率が12%で、市や全国と同程度ではあるが大変低くなっている。	・定規やコンパス、分度器を活用しながら正確な作図ができるよう繰り返し練習させる。 ・描いた図形や立体図形を丁寧に観察し、特徴や性質を感覚的に捉えらせるようにする。
数量関係	・A問題の正答率は83.9%で市や全国と比べ、2～4ポイント高くなっている。また、B問題の正答率は37.1%で、3ポイント程度低くなっている。 ○A問題の資料の整理を問う設問の正答率は、91.3%と高くなっている。 ●B問題の「最小の満月の直径」の図に対して「最大の満月の直径」の割合を正しく表している図を選択する問題の正答率は、58.7%で、市や全国と比べ6～8ポイント低くなっている。 ●B問題の割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶ問題の正答率は22.8%で、市や全国と比べ6～7ポイント低くなっている。	・グラフの数値や割合が何を表しているのかを細かく読み解く活動や複数のグラフから特徴を読み取る活動などを丁寧にやっていく。立てた式の意味を、図や絵を用いて説明するという活動を充実させることで、より深い理解へと繋げていけるようにする。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○地域に関する質問について、「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」の項目に対して、肯定的回答の割合が47.9%で、全国平均を12ポイント以上上回っており、地域に対する興味・関心の高さがうかがえる。本校で毎年行われている、よりよい地域づくりのための話し合いの場である「雀央サミット」を生かして実践力に結びつけることも一つの成果であると考えられる。今後も地域に積極的に関わる態度を育て活性化に繋げていきたい。

○「総合的な学習の時間」について、肯定的回答の割合が82.3%で、全国や県の平均より高い傾向にある。昨年度、保健教育の研究を総合的な学習の時間で進めてきた成果が表れていると思われる。今後も総合的な学習の時間の特性を生かしながら取り組むようにしていきたい。

○「家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」の肯定的回答が98.9%と関心が高い様子が見られる。

●読書について、1日の読書時間が30分以上の児童の割合が24%、まったく読まないと回答した割合が36.5%と、読書に対する意識がたいへん低い。今後は、読書週間などを活用しながら、本の楽しさを伝え、普段から読書をする環境を整え、継続的にできるよう支援していきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答が55.2%で、全国平均よりも低い傾向にある。自主学習の方法についてさらに指導していくとともに家庭の協力を促していきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあて・振り返りの実践	授業において、めあてを示すとともに最後に振り返りを書かせることで、目当てについての自己評価の機会を設けるようにする。	授業において「めあてが示されている」と回答した児童の割合は、93.8%で、県や全国と比べやや高かった。 また「授業の最後に振り返る活動をしている」と回答した児童の割合は76.1%で、県や全国と同程度であった。
伝え合う力の育成	友達同士で、自分の意見を分かりやすく伝え合ったり、文章で書いたりする機会を設けるようにする。 全クラスに説明するための型として、キーワードを示し、活用してきた。	「授業で、友達と話し合う活動をよく行っている」と回答した割合は90.7%で県や全国より高くなっている。 また、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した児童の割合は59.4%で市や県と比べやや高くなっている。
家庭学習の習慣化	自主学習を全学年で実施するとともに、高学年は授業との関連を強く意識した課題を選択させるようにしてきた。	「家で自分で計画を立てて勉強している」の回答割合は、55.2%で県や全国と比べ10ポイント以上低くなっている。 また、「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の回答割合は、4年生が66.7%で市や県より5ポイント高く、5年生は57%で、5～6ポイント低くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
読書に関して「平日の1日当たりどれくらい時間、読書をしているか」の回答で、全くしないと10分未満を合わせた割合が、53.2%と高かった。	読書の習慣化を図る。	読書週間を強化する。 保護者会等で、図書館の利用や家庭内での読書の習慣化について啓発を図る。 低学年で、図書館と連携して、学級図書を充実させる。